

# 「希望捨てない」日本に学ぶ

## いま No.1277 子どもたちは ガザで描く夢 ①

教室で、数学の授業が行われていた。

「アナ(私)！」

先生の質問に、みんなが競うように手を挙げる。ガイダ・アブハトゥラさん(15)は立ち上がり、数式をすらすら読み上げた。

4月下旬、パレスチナ自治区

ガザ南部のハンユニス。日本から約9千キロ離れた女子中学校の

放課後、青空の下で友達と談笑していた。「来月の試験はラマタン(断食月)中だから大

より強くさせた」

父を失くし、悲しみに暮れていたガイダさんは15年11月、NGO「日本リザルト」の企画で

ガザのほかの2人の子ともと来日した。リザルトは同年3月、東日本大震災の被災地・岩手県釜石市でガザの子どもの励ま

そうと、たご揚げを行った。東京では首相官邸やデイズニ

ランド、最先端の医療技術を持つ病院を訪問。物心ついてからガザを出たことがなかったガイダさんは「海を越えて来たよ

うだった」と振り返る。

金石市も訪れた。津波で多くの家が流された地区を見学した

ちと交流したりした。津波で家々がなぎ倒される映像を見て、

思わず涙がこぼれた。戦争中、50人の親族が逃げ込んだガイダ

さんの家は、イスラエル軍の空爆で破壊された。砲撃音が聞こ

えらたに体が震えた。

## ガザ 若者失業率6割

ガザは東京23区の約6割の細長い土地(365平方キロメートル)で、パレスチナ難民ら約190万人が住む。1967年の第3次中東戦争でイスラエル軍に占領されたが、93年のオスロ合意で、パレスチナ人による暫定自治が始まった。イスラエル軍は2005年に撤退したが、07年にイスラム組織ハマスが地区を掌握すると封鎖を強化。両者の大規模な戦闘は08年以降、3度繰り返され、復興は遅れている。

イスラエルによる境界封鎖で、人や物資の移動は大幅に制限され、輸出は事実上できない状態だ。失業率は4割(若者層では6割)を超え、世界最悪レベル。人口の8割が支援に頼らざるを得ない。15歳以下の子どもは人口の半数近くを占め、度重なる戦闘や封鎖の影響が懸念されている。

目を細める。

ガイダさんには夢がある。父の命を奪った心臓の病気を治す医者になることだ。来日して「広い世界を自分の目で見てみたい」と思うようになった。高校卒業後は海外の大学で勉強することにも憧れる。

しかし、そんなガイダさんの前に立ちちはたかかるのは、境界封鎖という現実だ。「ガザにも日本と同じように夢を持った優秀な若者がたくさんいるのに、将来の可能性を奪われている」。発電所も戦禍の被害を受け、1日4時間ほどしか電気が使えない。夜間は勉強できず、インターネットもつながらない。冬は極寒に耐えなければならぬ。

それでも、ガイダさんは信じている。「希望を持ち続けられれば、より良い未来が訪れる。医者になって、病気に苦しむガザの人々や家族を助けたら」

大きな戦禍が繰り返され、イスラエルによって境界を封鎖されているガザ。日本のNGOなどの支援を受けながら、夢を胸に抱き、勉強に励む子どもたちの様子を伝える。



④国連機関主催のイベントで、日本の高校生らとオンラインで交流するガイダ・アブハトゥラさん(中央左)。15日、ガザ南部ハンユニス。渡辺五郎撮影



⑤2015年11月、岩手県釜石市で地元の子どもと交流するガイダさん(中央)。国連パレスチナ難民救済事業機関提供